## 写真撮影の3原則

失敗写真とはどのような写真のことでしょう。被写体にうまくピントが合っていないピンボケ写真や撮影時に手ぶれ（撮影者の手が動いてぶれてしまうこと）や被写体ぶれ（被写体が動いてぶれてしまうこと）で、いい表情が撮影できなかった写真、逆光で顔が暗くなってしまった写真などが失敗写真の例といえます。そのような失敗を防ぎ、上手に写真を撮影するには3つの原則があります。

●ピントを合わせる

●手ぶれを防ぐ

●光の向きを考える

### ピント

上手に写真を撮影する1つ目の原則は、「被写体にピントを合わせること」です。

ほとんどのデジタルカメラには、オートフォーカス（AF）機能が搭載されており、自動的に画面の中心にあるもの、または手前にあるものにピントが合うようになっています。そのため、被写体が中心から外れていたり、後方にあったりする状態で撮影すると、ピンボケしやすくなります。

ピント合わせのコツは、シャッターボタンを途中まで軽く押す「半押し」です。シャッターボタンを半押しすると、合わせたピントを固定しておくことができます。半押しを覚えると、画面の端にピントを合わせた写真も撮れるようになります。

### 手ぶれ

上手に写真を撮影する2つ目の原則は、「手ぶれを防ぐこと」です。

コンパクトデジタルカメラは、小さく、持ち運びに便利ですが、カメラが小さいため、シャッターを押すときにカメラが動いてしまい、写真がぶれてしまう「手ぶれ」が起こりやすくなります。

ほとんどのデジタルカメラには、この手ぶれを軽減する機能が付いているので、この機能を設定しておくとよいでしょう。

### 光の向き

上手に写真を撮影する3つ目の原則は、「光の向きを考えること」です。

光の向きには次のようなものがあります。

●順光

被写体の正面から光が当たる状態です。正面から全体に光を当てることで被写体に影ができにくくなりますが、質感を出しにくいため単調な写真になることもあります。

●サイド光

被写体の左右から光が当たる状態です。被写体の輪郭や質感を強調することができますが、明暗差のはっきりした影ができるため、きつい感じの写真になることもあります。

●逆光

被写体の背中から光が当たる状態です。被写体の正面が影になるため暗くなりますが、被写体をシルエットとして浮き立たせる効果もあります。